

プレス公表（運転保守状況）

公表日	2026年6月12日		
号機	-	件名	屋外荒浜側高台エリアにおけるけが人の発生について（区分：Ⅲ）
① 【事象の発生】 ・ 2026年6月11日午前9時50分頃、屋外荒浜側高台エリアにおいて、コンクリートの型枠組立作業に従事していた協力企業作業員が、移動中に脇にあったのり面に右足をとられ、右足首を負傷しました。 そのため、業務車にて医療機関へ搬送しました。 【対応状況】 ・ 病院で診察の結果、「右足関節外果骨折」と診断されました。 今回の事例を踏まえ、発電所関係者に周知し注意喚起を行うとともに、再発防止に努めてまいります。 (2026年6月12日にお知らせ済み)			

プレス公表（運転保守状況）

公表日	2026年6月17日		
号機	7	件名	タービン建屋（非管理区域）における海水の漏えいについて（区分：Ⅲ）
【事象の発生】 ・ 2026年6月17日午前0時6分頃、7号機タービン建屋の中地下2階の電解鉄イオン供給装置エリアにおいて、巡視点検中の運転員が、電解鉄イオン供給装置の出口配管の継ぎ目部から、約26,000Lの海水が漏えいしていること確認しました。 そのため、漏えい箇所の前後にある弁を閉め、午前0時17分に漏えいは停止しました。 なお、漏えいしたのは海水であり、汚染はないことから、外部への放射能の影響はありません。 (2026年6月17日にお知らせ済み) 【対応状況】 ・ <u>漏えい箇所を分解したところ、配管側のフランジ部（継ぎ目部）には漏えいに至るような傷等はなかったものの、弁側のフランジ部のゴムライニング※¹面にわずかなへこみ（最大で約0.27mm）があることを確認しました。</u> ② ・ <u>2018年の点検時に当該フランジ部のガスケット※²の仕様を、RFガスケットからFFガスケットに変更しており、フランジ部のゴムライニングのわずかなへこみは、RFガスケットを長期間使用していたことにより生じたものと考えられます。</u> ・ <u>このわずかなへこみによってガスケットと弁側のフランジ部との締付圧力（面圧）が小さくなっていたところに、鉄イオン海水供給ポンプの運転・停止による、水圧の変化を繰り返し受けたことで、ガスケットが徐々に変形して密封性能が低下し、漏えいに至ったと推定しています。</u> ・ <u>応急処置として、FFガスケットから、へこみの影響を受けないRFガスケットへ交換を行い、鉄イオン海水供給ポンプの運転状態で、漏えいが無いことを確認し、復旧しています。（2026年6月26日）</u> ・ <u>また、応急処置での復旧のため、海水漏れが確認されたエリアを監視カメラで、1時間に1回確認しています。</u> ・ <u>恒久的な対策については、検討中です。</u> ※ 1 <u>防食や耐摩耗のため、金属製の配管の表面を被覆しているゴムシート</u> ※ 2 <u>配管の継手やカバーなど、動かない部分に挟み、隙間を埋めて漏れを防ぐシール材で、パッキンと同じようなもの</u>			

プレス公表（運転保守状況）

公表日	2026年6月29日		
号機	-	件名	フロンガスの構外処理における手続きの未実施について（区分：Ⅲ）
③ 【事象の発生】 ・ 荒浜側廃棄物焼却設備（管理区域）で管理していたフロンガスについて、ボンベに入れて構外に搬出し廃棄処理をした際、保安規定第88条の2（放射性廃棄物でない廃棄物の管理）で定める所定の手続きを実施していなかったことがわかりました。 具体的には、「放射性廃棄物でない廃棄物」として、構外で廃棄する際に求められる放射線測定、および記録の確認について、ボンベ内のフロンガスに対して実施していませんでした。なお、フロンガスの構外での廃棄処理作業は、フロン排出抑制法に基づき適切に処理していることを確認しています。 当該のフロンガスは、発電所構内搬入時から、構外で処理するまで外部と接触のない（密閉された）状態で管理されていること、当該のボンベは、構外搬出の際に放射線測定を行い、汚染はないことを確認していることから、外部への放射能の影響はないと評価しています。 【対応状況】 ・ 今後、原因調査を実施し、再発防止対策を講じてまいります。 (2026年6月29日にお知らせ済み)			

(参考) プレス公表 継続対応件名リスト

号機	－	件名	モニタリングポストの一時的な測定データ表示不良について（区分：Ⅲ）	公表日	2025年1月27日
号機	－	件名	海水モニタ、モニタリングポスト等の一時的な測定データ表示不良について （区分：Ⅲ）	公表日	2025年2月28日